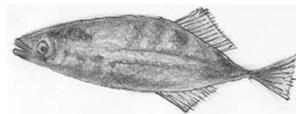


くまがや市民ネット準備会通信



生活クラブ運動の立ち上げ支援を受けています。

2022年8月29日発行 第6号

食について「子どもと未来」を 開催しました！

子どもたちの未来のために何ができるかを、月1回集まって話し合う「子どもと未来」。お任せではなく、みんなで決めていくということで、第1回目として7月10日に「食について」をテーマにして開催しました。以下はその時にでた声です。

- ・添加物、遺伝子組み換え、ゲノム編集などの危険性があまり知られていない。
- ・異常気象による農産物の不作が心配。
- ・畑で見かけたサトイモが背も小さく、ねじれていた。除草剤が撒かれているのが目立つ。
- ・知人の農家さんたちに除草剤について話したが、農家がどれだけ大変かが分かり、除草剤を撒かない方がよいとは言えなかった。
- ・正確な情報を農家に伝えていない。30年ほど前に有機物の循環農業について市民と農家と行政が会議をもったことがあるが、農協の人から農薬が売れなくなるから困るといわれた。
- ・20年ぐらい前に、農薬と農業者のガンの関係について講演会があった。食道がんが多い。
- ・輸入トウモロコシを材料にした加工食品、遺伝子組み換えされたクルミなどで子どもたちがアレルギー反応を起こす。
- ・地元の畑を自分たちで耕して外国産に頼らないことがよい。
- ・できれば大勢の人向けの農産物と、少ない数でも地元の農家で作った農産物の2通りを用意してほしい。
- ・農業のことに若い人を巻き込めていない。
- ・生産者グループになって生活クラブと契約をすればカタログに入れることができる。
- ・生活クラブの組合員になっても、生活クラブの良さを理解してもらえないままやめていく人がかなりいる。



- ・食に無関心ではいられない人を増やしたいので、発信する拠点がほしい。
- ・市議会議員さんと呼んで話し合いをしてはどうか。勉強してもらいたい。
- ・この会というより、別のグループにした方がよい。
- ・同じような考え方を持っている人とつながりたい。
- ・子どもにアレルギーがあり、動物性の食物はだめ。ホタテパウダーにつけると油分の浮き方が違う。生活クラブでもあつぱれ、はればれだと油分が殆どでない。
- ・生活と自治7月号に「性教育で子どもを守る」の記事がある。
- ・子どもが鼻マスクをしていたら他の子からいじめられた。去年の担任がマスクしろという先生だった。マスクを推奨することには強制力はないと文科省に確認した。
- ・母が健康関連のセミナーを熊谷で開催している。多いときは20人参加者がいたが、4、5人しか集まらない。
- ・なぜ学校でオーガニック給食を取り入れないか。上尾や八潮はすでに行っている。
- ・熊谷は農業に対する関心が薄すぎる。西小、富士見中の給食はまずかった。
- ・3代にわたってアレルギー体質で、子どもに予防接種は一切打っていない。病院は歯医者以外に行かず、自己治癒力で治している。

(まとめ:東)

川崎哲さん講演会報告

7月23日に生活クラブの環境平和委員会主催で、「ウクライナ戦争から考える世界情勢と核兵器のなくし方」という講演会がありましたので報告します。

毎日映像がながれる。ウクライナの惨状とロシアの攻撃の報道に触れる日常に、私は不安と恐怖からられる。いまだコロナ禍にある私達の暮らしにも戦争が影を落としている。情勢から目は離せない

が、できるだけ目にしたくない気持ちも正直ある。

そんな時、核兵器禁止条約の発効に力を尽くした川崎哲(あきら)さんの講演を伺った。核の脅し合いでバランスをとり続けようとするよりも、理性的で持続可能な安全保障モデルである核廃絶への道筋や、これから世界はどこに向かうのか。実質的に核廃絶に必要な課題は様々あることもわかった。条約の普遍化を目指し、戦争により被曝した唯一の国にきている私達にできることは何なのか考え続けていかなければならない。
(金内)

高齢者をなめるなよ！

コロナのパンデミックを機に熊谷でずっと暮らすことにした私は、まず、仕事を見つけにハローワークへ行った。そこで分かったのは後期高齢者にとってそれまでの経験を生かすのは夢のまた夢どころか、仕事を得て社会参加することさえ不可能ということだった。置いてあったスキルアップのための講習会のチラシを手にとると、職員が「無駄ですよ」。おまけに親切にも階段を歩いて降りられるかと心配し、エレベーターを使ってよいと言う。エレベーターには「節電のため不使用」と張り紙がある。そのエレベーターを使って良いというのだ。なんと優しい！

後日、福祉課から封書が届いた。仕事が見つかるまでの支援をするという。支援金を3か月間貰えるというので出かけていった。担当者はルーズリーフを取り出し、「この名簿に載っている人には全員連絡することになっています。でもあなたは年齢的に該当しません。どうぞ、お引き取り下さい」。名簿には私の生年月日が記入してある。分かっているながら、何故、呼び出したのか。これまでやってきたことを漫然と繰り返しているだけなのだ。がっかり！

厚生労働省が生活困難者の支援をしているというので電話をした。支援に年齢制限はあるかと尋ねると、「ない」という。「熊谷市の福祉課」に申請

するように薦めてくれる。福祉課は「この支援を受けられるのはハローワークに毎月通い、求人者と数回の面接をしていることが条件です」と言う。どうどう巡りの振り出しに戻っただけだ。

社会福祉とは何か。せつかく福祉課に配属されているのに福祉を学べないのはもったいないではないか。理由はいくつかあろうが、ひとつには職員に正規と非正規があり、給料に差があることを指摘したい。総務課によると福祉課の職員の半分は非正規だという。給料が低いからいい加減にやるとは限らない。賢明に業務をこなしている非正規職員もいるにちがいない。だが、給料に差をつけるなんてみみっちいことはやめ、福祉のプロとして誇りをもって仕事ができるように福祉について学ぶ環境をつくったらどうか。

年齢を重ねて初めて得られる見識がある。高齢者の持つ知恵や判断力や理解力を生かさないと宝の持ち腐れだ。私の周りにも円熟した頼りになる高齢者がたくさんいる。

働く意欲のある人が幾つになろうと元気に働いて税金を納める活気ある熊谷市になったら、移住者がきっと増えると思う。高齢者をなめるなよ！



(清水)

会員になってください！

毎日の食べ物、子どもの教育、ゴミの問題、医療や介護の問題、長時間労働など私たちは様々な不安や疑問を抱えています。そうした声を熊谷市に届けたいと私たちは活動しており、一緒に取り組んでいただける方を募集中です。できる範囲で構いません。お気軽に欄外の連絡先までお問合せ下さい。

引き続きアンケートを募集しています

熊谷市がこんな風になってほしいとか、ここに問題を感じているなど自由なご意見を募集しています。いままでいただいたアンケートは以下のような内容でした。

- ・身体に危険なものを製造、販売しないでほしい。
- ・少子化対策にもっと力を入れないと次の時代が心配です。
- ・安心安全な地域になるといいと思います。

無農薬、化学肥料、添加物、放射線、ワクチンによる健康被害。

水道の民営化や食糧自給率が低いことによる食糧難の心配。

温暖化などによる自然災害が起こる可能性。そのための予防と対策。

ご意見はこちらから⇒

